

国際音楽資料目録 (RISM) と 資料情報入力ソフト「カリスト Kallisto」

樋口 隆一

音楽研究の基盤が音楽に関するさまざまな資料の収集によって固められることは言うまでもない。国際音楽学会 International Musicological Society (IMS) と国際資料情報協会 International Association of Music Libraries, Archives and Documentation Centres は、そのような基本資料情報の収集、整理を目的とした次の4つのRプロジェクトを推進している。

- 国際音楽資料目録 Repertoire International des Sources Musicales (RISM)
- 国際音楽文献目録 Repertoire International de Literature Musicale (RILM)
- 国際音楽図像目録 Repertoire International d'Iconographie Musicale (RIIdIM)
- 国際音楽記事総覧及び記事索引 Repertoire International de la Presse Musicale (RIPM)

4つのプロジェクトの詳細に関しては、それぞれのサイトを参照していただきたい。

この中で、わが国の音楽研究が最も密接に関わってきたのは、「国際音楽文献目録」(RILM)である。ニューヨーク市立大学に本部が設立されたのは1966年のことだが、すでにその翌年にあたる1967年には、「RILM日本国内委員会」が設立され、わが国の音楽文献のなかでも国際的に発信すべきものを厳選し、その題名と要旨を英文のデータとしてニューヨークの本部に送る仕事が始まっている。1972年からは日本独自の国内版目録『音楽文献要旨目録』を発行し、1993年には『音楽文献目録』と改称し、現在その42号が発行されている。1993年には委員会の名称も「音楽文献目録委員会」と改称されている。

ニューヨークの本部に集められた膨大なデータは、かつては浩瀚な冊子体で発行されていたが、近年ではデジタルデータベースとしてEBSCO社よりインターネットで有料公開され、非常に使い勝手が良くなった。明治学院大学図書館サイトにおいても学内者はRILMのデータベースが利用可能であり、電子ジャーナルとして提供されている学術雑誌論文の場合は、本文への直接リンクとダウンロードも可能となっている。

「国際音楽図像目録」(RIIdIM)の場合、国内委員会はまだできていないが、京都市立芸術大学日

本伝統音楽研究センターが受け皿機関に代わる活動をしている。「国際音楽記事総覧及び記事索引」(RIPM)も残念ながら、対象は欧文雑誌に限られており、わが国の音楽記事は国際的なデータベースから除外されているのが現状である。

「国際音楽資料目録」(RISM)は音楽研究の最も基本的なツールである。その膨大なデータベースは、大別してA・B・Cの3つのシリーズからなっている。Series Aは「音楽資料所在目録」、Series Bは「トピック別資料目録」、Series Cは「音楽図書館目録」となっている。

なかでも重要なのはSeries Aで、A/Iが「1800年以前の出版楽譜」、A/IIが「1600年以降の手稿譜」であり、特にA/IIは、世界35か国を超える900以上の図書館、博物館、文書館、教会、教育機関、個人が所蔵する85万点のオリジナル音楽資料のデータベースであり、きわめて利用価値が高い。近年ではオンライン検索が可能であり、RISMのサイトのみならず、学内者であれば明治学院大学図書館のサイトからも検索が可能である。

わが国の音楽研究にとって大きな問題は、残念ながらいまだに日本支部が設立されていないために、わが国の図書館に少なからず所蔵されている重要なオリジナル資料のほとんどがこのデータベースに含まれていないという点である。例外は国立音楽大学附属図書館で、同館が所蔵するオリジナル資料の資料情報はすでに登録済みである。

明治学院大学図書館もワーグナーの《ピアノ独奏のためのポロネーズ 二長調》WWV 23 Aの自筆譜を所蔵しているが、残念ながらいまだに未登録であり、同図書館に附属する日本近代音楽館の資料もまた未登録である。目を学外に転ずれば、例えば読売日本交響楽団が所蔵している「南葵音楽文庫」はかつてイギリスにあったカミングス・コレクションに由来し、世界的に見ても著名なコレクションであるが、その他の大学図書館の資料と同様に未登録のままであり、国際的学術協力の観点からは問題が多い。

筆者は、2005年10月22日に明治学院大学で開催された第56回日本音楽学会全国大会においてシンポジウム「日本の音楽資料——収集・整理と研究」を企画し、問題を提起した。幸い2008年には日本音楽学会、音楽図書館協議会、IAML日本支部の協力の下に、「日本の音楽資料」調査委員会(委員長・久保田慶一)が発足し、文化庁の委託を受け、数年にわたる『日本の音楽資料』のデータベース化のための調査研究を実施することができた。その最初の成果として「近代日本刊行楽譜総合目録 洋楽編」データベースが完成し、2015年3月から国立国会図書館のサイトで公開されるに至ったのである。現在では、1945年以前の出版楽譜のみが収録されるにとどまるが、大きな一歩であることは言うまでもない。将来的には手稿譜等のオリジナル資料のデータベースの公開に至ることが望まれるが、例えば上記のデータベースにしても、言語は日本語のみであり、国際的な利用には困難が多い。近い将来にRISM日本支部が発足し、これらのデータがRISMに登録されるようになることが望ましいが、運営資金の問題もある。今後の課題とせざるを得ない。

筆者は、1995年～2014年、音楽文献目録委員会 (RILM 国内委員会) の委員長を務めてきたこともあり、わが国の音楽研究と RISM の協力関係の実現をかねてから必要と考えていたが、正直のところ RISM の膨大な仕事の内実に関しては無知であったので、どこから手を付けて良いかわからない状態であった。

2006年6月には、国際音楽資料情報協会 (IAML) の国際大会がスウェーデンのヨーテボリで開催され、RILM 国内委員長としてはじめて参加することができたため、RISM のセッションにも参加した。すると同じ『新バッハ全集』の校訂者として旧知の間柄であり、ライプツィヒ・バッハ・アルヒーフ所長でもあったクリストフ・ヴォルフ教授が、2004年から RISM 会長に就任していることを知り、RISM への距離が一挙に縮まった。たまたま同年8月には、ドイツ学術交流会 (DAAD) よりドイツへの公式招待があったので、急遽 RISM 本部の視察も希望し、フランクフルト大学にある本部への公式訪問が実現した。

パイロイト大学訪問のあと、フランクフルト大学の RISM 本部を訪れると、クラウス・カイル所長が待っておられ、いろいろと苦労話を聞かせてもらえた。所長室にあった身の丈よりも高いカード・ケースにも圧倒された (図版1)。現在ではカードは使っておらず、資料情報の整理にはもっぱらパソコンを使っているのだが、RISM の歴史なのでカードも保存しているということだった。資料情報の入力のための分厚い「マニュアル Richtlinien」を渡され、「RISM の仕事の詳細を理解するためにはこれを読んで欲しい」と言われたことを覚えている。

2007年7月10日～15日にはチューリヒで国際音楽学会 (IMS) の世界大会が開催された。筆者は、金澤正剛教授の後任として日本代表理事に選挙されたため参加したわけだが、会期中の7月13日・14日の両日、チューリヒ郊外のアインジーデルン修道院で RISM 国際会議も開催されるというので、



図版1 フランクフルト大学にある RISM 本部の膨大なカードケース
筆者とクラウス・カイル所長

カイル所長の誘いに従って出席した。アインジーデルンに着いてみると、会長のクリストフ・ヴォルフ教授だけでなく、チューリヒ大学のハンス・ヨアヒム・ヒンリクセン教授も来ておられたのには驚いた。ヒンリクセン教授とは、前年にウィーン・シェーンベルクセンター主催のシンポジウム「シェーンベルクとモーツァルト」で知り合ったばかりであったが、IMS チューリヒ大会の実行委員であると同時に、RISM スイス支部の会長を務められていたのである（図版2・3）。



図版2 アインジーデルン修道院



図版3 左から筆者、クナウス（スイス RISM 所長）、ヴォルフ（RISM 会長）、ヒンリクセン（スイス RISM 会長）、ブッシュマイヤー（ドイツ科学アカデミー）

2日間の会議に陪席させてもらってわかったのは、RISMの資料情報入力のためのソフトウェアである「カリスト Kallisto」が開発され、それを使えば世界中の支部や図書館と本部がインターネットで繋がれ、双方向的に意見交換を行いながら入力作業が可能となるということであった。このアインジーデルン会議については、IAML 日本支部のニュースレター第31号(2007年9月発行)に、「RISM プロジェクトの現状 — アインジーデルン国際会議を中心に」という報告を寄稿している。

帰国後、RISMのサイトを開いたところ、アインジーデルンで紹介された入力ソフト「カリスト」のチュートリアルと、新しいマニュアルがアップされていて、その手際の良さに驚かされた。明治学院大学で筆者が指導する大学院ゼミでは、すでにフランクフルトで手渡されたマニュアルの日本語訳を試みていたが、新しいマニュアルは旧版よりもはるかに簡潔でわかりやすいものになっていたため、引き続き、新版に従って訳出を進めることにした。

2008年のIAML年次大会は7月20日～25日、ナポリ音楽院で開催されたが、RISM国際会議もまた、7月26日、音楽院に程近いサンタ・マリア・マッジョレ教会で行われた。この会議の内容もIAML日本支部ニュースレター第34号(2009年2月発行)に報告している。「カリスト」のマニュアルも、オリジナルのドイツ語版のみならず、英語版もイギリス支部によって作成され、さらにイタリア語版、ロシア語版も作成中とのことであり、日本語版の完成が急務であるとの認識を得た(図版4)。



図版4 ナポリでのRISM国際会議で挨拶するクリストフ・ヴォルフ会長

以上の経緯を経て、「カリスト Kallisto」入力マニュアルの日本語版が完成したのは2010年2月のことであった。困難な翻訳にあたったのは、筆者の指導のもとに明治学院大学大学院文学研究科芸術学専攻音楽コースで学んでいた加藤拓未、小林幸子、寺本圭佑、シュテファン・メンツェル Stefan Menzel、佐藤仁美、久保絵里麻、阿久津三香子の各君であった。その後、寺本、加藤、佐藤、小林の各君は、明治学院大学の課程博士（芸術学）となり、メンツェル君はワイマールのフランツ・リスト音楽大学で博士号を得ている。それぞれ資料研究を核とした立派な業績を挙げることができたのは、「カリスト Kallisto」の翻訳を通じて、資料研究の基本を学んだことによると確信するしだいである。

筆者としては、このマニュアルの翻訳を契機として、RISM 日本支部を立ち上げることができれば良いと考えていたのだが、周囲の事情がそれを許さなかった。そのころ明治学院大学としては、日本近代音楽館が所蔵する50万点の資料をお引き受けして、明治学院大学図書館附属日本近代音楽館を2011年5月に設立するという大事業が始まり、筆者としてもまずはそのことに専心する必要に迫られた。筆者個人も、2007年には国際音楽音楽学会（IMS）の日本代表理事となり、さらに2012年には副会長に選挙されたことにより、どうしても国際的活動はIMS 中心となり、IAML や RISM の国際会議に出席する余裕が無くなってしまったのである。現在も、2017年に東京藝術大学で予定している第20回IMS 東京大会の準備に専念せざるを得ない日々が続いている。

日本音楽学会としても、上述のように2008年以来、「日本の音楽資料」調査委員会の研究活動は始まったものの、文化庁の委託を得て、とりあえず日本国内における研究調査に専念せざるを得ない状況であった。しかしながら、こうした状況は決して否定的なものではなく、「日本の音楽資料」の研究調査が進むべき確固たる道程にほかならない。次の段階として、RISM 日本支部の設立と、わが国の大学図書館等に眠るオリジナル資料情報の国際的発信を視野に入れるべき時がかならずやってくる信じざるを得ないしだいである。

筆者としても、明治学院大学を退職するにあたり、「カリスト Kallisto」（日本語版）をここに刊行して、そうした可能性を次世代に託す所存である。

Kallisto の手引き (日本語版)

Kallisto Compendium (Japanese)

Translated by Ryuichi HIGUCHI

With Takumi KATO, Yukiko KOBAYASHI, Keisuke TERAMOTO, Stefan MENZEL,
Hitomi SATO, Eria KUBO, Mikako AKUTSU

Meiji Gakuin University, Tokyo Date: 10.2.2010

RISM の資料情報入力ソフト Kallisto の入力マニュアル
ドイツ語版と英語版 (ともに 2008 年 3 月 7 日) を底本に使用

翻 訳

明治学院大学大学院文学研究科芸術学専攻 樋口隆一研究室

加藤拓未, 小林幸子, 寺本圭佑, Stefan Menzel, 佐藤仁美, 久保絵里麻, 阿久津三香子

2010 年 2 月 10 日完成

1. 音楽資料/RISMの手引き

1.1. Maske Werk/タイトル・テンプレート

Besitzende Inst./Sigel Werk 所蔵機関/略号

必須項目。

この一覧は、所蔵図書館や所蔵機関の登録に使う。最初の欄に、略号を入力し、次の欄にはその名称を記入する。

この項目は、諸機関データとリンクしている。

F2キーによって、既存のデータを探し、その登録情報を用いることができる。

Besitzende Inst./Name 所蔵機関/名称

ここまでで、適切な機関を見つけることができなかった場合、機関名をこの欄に入力することができる。

Besitzende Inst./ISN 所蔵機関/ISN

この項目には、接続されたデータの8桁のaDISデータナンバーが現れる。

すでに登録された機関に直接リンクさせるために、入力することもできる。

Bestand 既登録データ

この項目には、遺産、コレクション等の名称を記入することができる。

この項目は、登録処理データとリンクしている。

F2キーで、既存のデータを探すことができ、必要ならば新たに記入することができる。

Bestand/ISN 既登録データ/ISN

この項目には、接続されたデータの8桁のaDISデータナンバーが現れる。

すでに登録された機関に直接リンクさせるために、入力することもできる。

RISM-Nummer RISM ナンバー

必須項目。

RISM シリーズ A/II の、9桁の番号である。

その際、最初の3桁はローカル・グループを示し、アクセス・ルールを規定する。

Signatur 分類記号

必須項目。

この項目には、分類記号を記入する。上付き表示は | によって示す。

ひとつの登録の中では、分類記号は統一しなければならない。アルファベットの最後の文字と、続く番号の間にスペースを入れる。

分類記号がない場合、[without shelfmark (分類記号なし)] の文字を記入する。

この項目には、今日において重要な分類記号が記入される。その他の、または古い分類記号は weitere Signatur (その他の分類記号) (同項目を参照) の欄に記入される。

例：

Ms Mus 165/6

Mus.ms. 743

Th.mus. A 5

P 7 G 359

Vm | 1 805

[without shelfmark]

weitere Signatur その他の分類記号

- a 古い分類記号
- b RISM B 番号
- n もうひとつの分類記号
- r RISM A/I 番号
- w その他の分類記号

ここには、その他の分類記号をそれにふさわしい表示と共に記入する。

記入の方法は、Signatur (分類記号) の項目にしたがう。

使用できる表示としては、alte Signatur (olim) (古い分類記号) を表す a, andere Signatur (もうひとつの分類記号) を表す n, weitere Signatur (その他の分類記号) を表す w がある。

Über. Aufnahme 上位の記録

この項目は、タイトルの記録を上位の記録、例えば Collection (曲集) の記録とリンクさせる。

下位の記録を入力すると、この項目には自動的に上位の記録のタイトルが表示される。

F 2 キーで、既存のデータを探すことができ、必要ならば新たに記入することができる。

Über. Aufnahme ISN 上位の記録の ISN

この項目には、上位のタイトルの記録の 8 桁の aDIS データナンバーが現われる。
この項目はまた、既存のタイトル記録に直接リンクさせるために入力することもできる。

Druckschrift/Titel 出版物／タイトル

この項目には、当該の資料に関する出版物の参照指示がなされる。
出版物は、Katalog データの中にある。
F 2 キーで、既存のデータを探すことができ、必要ならば新たに記入することができる。

Druckschrift/Ind. 出版物／表示

- ab 当該資料からのコピー
- dv 当該資料の原本
- ex 同一出版物

リストボックスから設定値の 1 つを選ぶこと。

Druckschrift/Kürzel 出版物／略語

この項目では、接続されたデータの短いタイトルが、カタログから現われる。

Druckschrift/ISN 出版物／ISN

カタログの記録に接続すると、ふさわしい aDIS データナンバーが、この項目に自動的に現われる。
この項目はまた、既存のタイトル記録に直接リンクさせるために入力することもできる。

Person von/Name Person von/人名

ここには、より広い意味で作品の作者として関与するすべての人物が入力される。すべての人物は特定の機能とともに示される。

機能は、作曲家は y, 共同作曲家 m, 作詞家 v, 編曲者 b, 作曲家関係者 q である。不鮮明な機能は u で表示される。

また、一人の人物はさまざまな機能によって何回も入力されうる。

Collection (曲集) の場合には、その人名が、そこに含まれている作品すべてと関係する場合にのみ、それ以外の場合には、作曲法 (楽種) によって示される。

この項目は、人名規準データとリンクしている。

F 2 キーで、既存のデータを探すことができ、必要ならば新たに記入することができる。

Person von/Art. Person von/様態

もし、名前が資料の中に全く、もしくは部分的にしか記載されていない場合は、人物は ermittelt (確認済み) と表示される。

二次的な証明 (例: 文献) による疑わしい同定、もしくは自分の推測に基づいた同定は、mutmaßlich (推定) と表示される。

資料それ自体の疑わしい同定も、angeblich (表示上) と表示される。

誤った同定は、fälschlich (錯誤) と表示される。

Person von/Ind. Person von/表示

- a 登録済
- b 未登録

この項目は、人物の規準データ内の登録状況を示しており、またそこから選択される。

その人物の規準ファイル内にデータがない場合は、その人名は自動的に同定不能とみなされる。

Person von/Fkt. Person von/機能

ヘルプ Person von を参照。

Person von/ISN

人名規準データを接続すると、適切な aDIS データナンバーが、自動的にこの項目の中に現れる。

すでに登録された人物に直接リンクさせるために、入力することもできる。

Sonstige Person/Name その他の人物/名前

ここでは、資料と関係する他の人物を入力する。

全ての人物は特定の機能とともに示される。

また、一人の人物は様々な機能によって何回も登録されうる。

この表には、演奏家 in, 筆者 sc, 以前の所有者 vb, または被献呈者 wt という表示も入力される。

人物の整理が不明の場合、あるいは人物の機能が記載されていない場合、表示には so (他の人物) を付けてもよい。

ヘルプ Person von も参照せよ。

Sonstige Person/Art. その他の人物／様態 (Person von も参照)

もし、名前が資料の中に全く、もしくは部分的にしか記載されていない場合は、人物は ermittelt (確認済み) と表示される。

二次的な証明 (例: 文献) による疑わしい同定、もしくは自分の推測に基づいた同定は、mutmaßlich (推定) と表示される。

資料それ自体の疑わしい同定も、angeblich (表示上) と表示される。

誤った同定は, fälschlich (錯誤) と表示される。

Sonstige Person/Ind. その他の人物／表示

この項目は、人物の規準データ内の登録状況を示しており、またそこから選択される。

その人物の規準ファイル内にデータがない場合は、その人名は自動的に同定不能とみなされる。

Sonstige Person/Fkt. その他の人物／機能

ヘルプ Sonstige Person を参照せよ。

Sonstige Person/ISN その他の人物／ISN

人名規準データを接続すると、適切な aDIS データナンバーが、自動的にこの項目の中に現れる。

すでに登録された人物に直接リンクさせるために、入力することもできる。

Körperschaft/Name 法人団体／名称

この表には法人団体が入力される。全ての法人団体は指定の機能によって分けられる。機能とは演奏団体 in (例: オーケストラ), 筆写者工房 sc, 前所蔵機関 vb, 被献呈団体 wt である。

整理が不明な場合、また上記以外の機能の場合は、その他 so に整理できる。

この項目は法人団体基準データにリンクしている。F2 キーで、既存のデータを探すことができ、必要ならば新たに記入することができる。

Körperschaft/Art. 法人団体／様態

もし、法人団体が資料の中になく、もしくは部分的にしか記載されていない場合は、ermittelt (確認済み) と表示される。

二次的な証明 (例: 文献) による疑わしい同定、もしくは自分の推測に基づいた同定は mutmaßlich (推定) として扱われる。

資料自体の疑わしい同定も、angeblich (表示上) と表示される。

誤った同定は fälschlich (錯誤) と表示される。

Körperschaft/Ind. 法人団体／表示

この項目への登録は、法人団体基準データ内の登録状況を示しており、またそこで選択される。法人団体のデータ内で値がない場合は、法人団体の名前は自動的に同定不能とみなされる。

Körperschaft/Fkt. 法人団体／機能

このリストボックスでは法人団体の機能を選ぶことができる。詳しくは Körperschaft のヘルプを参照せよ。

Körperschaft/ISN 法人団体／ISN

法人団体基準データの記録にリンクすると、この項目には自動的に適切な aDIS-データナンバーが現れる。

すでに登録された法人団体に直接リンクさせるために、入力することもできる。

erfasst am 登録年月日

登録年月日の行はタイトル登録のために用いられており、タイトルの進捗状況を除き、システム上作成される。年月日の変更は不可能である。

geändert am 変更年月日

システムによって自動的にデータの変更履歴が作成される。

Bearb. 編集者

タイトルを保存した後、この項目にはあなたがユーザー登録した略名が現れる。編集者の略名は検索できない。

Ersterf. 初登録者

タイトルを保存した後、Erst [erfasser] の項目には、タイトル初登録者のユーザー略名が自動的に現れる。この項目は検索も変更もできない。

Status 進捗状況

Status の項目では編集者のタイトル作成の進捗状況が入力できる。一般的に用いられている記号は、[i] が暫定登録、[k] が編集完了、[y] が編集中を示している。

1.2. Maske Titel／タイトル画面

Einordnungstitel/Ind. 整理タイトル／表示

このリストボックスの基準値は、RISM 整理タイトル ri である。次の項目に登録されるべきタイトルは、RISM の規則に従って作られるからである。

この登録を変更する場合には、編集局と相談すること。

Einordnungstitel 整理タイトル

必須項目。

整理タイトル ET とは、名称は異なるが、類似した名称の作品を、統一したタイトルにまとめたもの。疑わしい件には、最後に疑問符をつける（例：Die Zauberflöte?）。角括弧、丸括弧は使わない。異なった名称は「別タイトル Weitere Titel」に入力する。

以下のものが ET の対象となる：

1. ET としての個別タイトル

個別タイトルは統一した書き方をする。(1)ニュー・グローヴ、(2)MGG、(3)作品目録、または(4)他の事典に従う。

舞台作品、オラトリオ、カンタータ、歌曲や器楽作品（例えば明確な個別タイトルが付いた 18 世紀の性格曲）などの全ての種類は、通常ひとつの個別タイトルによって整理される。

個別タイトルに冠詞がある場合、Sort [ierung] ohne erstes Wort（最初の単語なしの分類）の欄をクリックし、冠詞を取り除く。

2. ET としての歌詞冒頭 Textincipit

声楽曲に個別タイトルがない場合、歌詞の冒頭 Textincipit を ET とすることができる。

レチタティーヴォとアリア、またはシェーナとアリアがある場合、基本的にはアリアの歌詞冒頭が ET となる。レチタティーヴォとカヴァティーナ、シェーナとロンド、またはそれに似た組み合わせも同様である。

それに対してカンタータの場合、ET とする最初の歌曲の歌詞は、レチタティーヴォでもアリアでも合唱でも構わない。

ミサ、レクイエム、エクセクイエ、リタニア、オフィツィウム作品は、楽種表示をつけて分類する。無名の個別タイトルのついた完全なオペラやオラトリオは歌詞冒頭ではなく、楽種表示で分類する。独立したオペラ・アリアや、そのオペラのタイトルが知られていない場合、アリアの歌詞冒頭が ET

となる。

大文字、または小文字の表記法はそれぞれの言語のルールに従う。しかし、神を表す語は常に大文字を使う (Herr, Dio, Dieu, Signore, Lord など)。

ラテン語の歌詞冒頭は、シソーラスのラテン語テキストに従う。ただし、ラテン語歌詞は分離表示 (星印) までに留める。

句読点と反復記号は、歌詞冒頭から削除する。

翻訳の場合は、原語を ET とする。

3. ET としての楽種

個別タイトルも歌詞冒頭もない場合、または ET としての上記の例にあてはまらない場合、その作品の楽種が ET となる。

ET としての楽種は概して、英語の複数形による (例: Operas)。

4. ET としてのテンポ記号, その他

適当な楽種が見つからない場合、テンポ記号を ET とすることができる。

使用できるものがない場合、以下の表示を用いること:

Songs (声楽曲)

Pieces (なんらかの作品)

Movements (テンポ表示のない不特定の器楽作品の単独楽章)

完全な作品ではなく、部分的である場合、ET に Excerpts (抜粋) を付すことができる。厳密な記述は Bemerkungen (コメント) の項目で行うことができる。

スケッチしか存在しない場合、ET は Sketches を補足することができる。

他の作品の編曲である場合、ET は Arr を補足することができる。

コレクションの場合、可能な限り包括的な楽種名の前に当該作品の数を示すアラビア数字が付される。

そして、この数字は分類の冠詞の場合と同様に削除する。

その際、分類の数字を削除するために Sort [ierung] ohne erstes Wort (最初の単語なしの分類) の欄をクリックしなければならない。

表記を統一するために、F2 キーで、アルファベット順の索引を閲覧することができる。

例:

Die Forelle (Sort. ohne 1. Wort: ja)

Die Zauberflöte. Excerpts. Arr (Sort. ohne 1. Wort: ja)

Der Mond ist aufgegangen (Sort. ohne 1. Wort: nein)

25 Arias (Sort. ohne 1. Wort: ja)

3 Instrumental pieces (Sort. ohne 1. Wort: ja)

チェック・ボックス Sort. ohne 1. Wort

タイトルの最初の単語を分類することができない場合、この項目をクリックして印をつける。

Bemerkungen コメント (以前の名称: Pauschales Angaben 一括記述)

ここでは、作品、もしくは作品の一部についての一括した記述がなされる。

例:

5 sonatas, 2 fantasies

5 motets, 2 masses, 1 magnificat

Opera in 3 acts

5 Arias from the opera in 3 acts

2nd part of the motet

3rd version of the requiem

Suchbegriffe 検索概念

この項目では、登録されたタイトル記録に、独自の検索概念を入力することができる。

Weitere Titel/Indikator 別タイトル/表示

このリストボックスの基準値は、RISM 整理タイトル ri である。次の項目に登録されるべきタイトルは、RISM の規則に従って作られるからである。

この登録を変更する場合には、編集局と相談すること。

Weitere Titel 別タイトル

この項目は、「整理タイトル」についての別の記述のためのものである。

以下のような別の記述が可能である:

- あるオペラの別タイトル (いわゆるオッシア・タイトル)
- タイトルの翻訳
- 分類が不確実な場合の別の楽種
- 聖人の名前が Liber usualis によって規格化されているパロディー・ミサ曲や固有文ミサ曲のタ

イトル

- ある作品の通称 (例: ネルソン・ミサ, ジュピター交響曲)
- 明白な固有のタイトルがない作品 (例: 祝祭カンタータ, Fürstenlied)

入力の規格化の助けとして, F2 キーでアルファベット順の索引を閲覧することができる。

例:

Einordnung (整理名): Don Giovanni
altern. ET (別名): Der Steinerne Gast

Einordnung (整理名): Masses
altern. ET (別名): Missa S Ursulae

Einordnung (整理名): Variations
altern. ET (別名): Ein Mädchen oder Weibchen. Var

Einordnung (整理名): Consola amato bene
altern. ET (別名): Una Cosa rara. Inserts

Einordnung (整理名): Masses
altern. ET (別名): Deutsche Messe (=ラテン語ミサ典礼文のドイツ語訳)

Einordnung (整理名): Masses
altern. ET (別名): Deutsche Hochamt (=自由訳されたドイツ語典礼文)

Norm. Formaltitel 規定の形式タイトル

必須項目 (個々の作品ごとに)。

規定の形式タイトル (以前の名称: Schlagwort) は, 登録されたタイトルの体系的なジャンル分けに役立つ。この項目は, コレクションの場合以外は必ず記入されねばならない。

この項目は規準データ「シソーラス」とリンクする。

F2 キーで, すでに登録したデータを検索することができる。ただし, 新しい登録は, 編集局との協議によってのみ, 登録されなければならない。

形式タイトルは、全作品、もしくは原曲、または編曲、抜粋、個々の楽章などに適用される。比較的大規模な声楽作品の一部の場合には、作品全体の楽種の他に当該の部分の楽種（例：アリア、行進曲）も登録される。

Norm. Formaltitel/ISN 規定の形式タイトル/ISN

シソーラス・データの記録にリンクすると、自動的に適合する aDIS ナンバーがこの項目に現れる。すでに登録されたシソーラス・データに直接リンクするため、この項目に記入することもできる。

Diplomatischer Titel 原典のタイトル

必須項目。

資料のタイトルは、原典に忠実に、また原則的に短縮しないで記入される。

改行は、|（前後にスペース）で、上付きはその文字の前に、|（スペースなし）で示される。

項目の最初に、当該の記述が角括弧の中に書かれ、タイトルはそこに入力される（例：[caption title:]）。その際、原則として英語表記を使用する。記述はコロンで完結される。

同様に補足的な記述も角括弧の中になされる。例：[by later hand] など。

異例もしくは誤った綴りは、[!] で示される。

資料が多くのタイトルを示している場合（そのタイトルがその内容において異なる、または補足的である場合）、そのタイトルはすべてその都度〈br〉で区切られて記録される。

さらに、タイトルの由来も角括弧で示される。

タイトルがない場合は、[without title] と入力される。

例：

[cover title, vol. 1:]

[caption title, p. 3:]

[heading, S:]

[crossed out:]

[without title]

Werkverz./Kürzel 作品主題目録/略語

この項目には作品主題目録の略語を入力することができる（例、BWV）。

この項目は既登録データ Katalog とリンクしている。

F 2 キーで、既登録データを検索することができる。

編集局との合意によって、作品主題目録をさらに登録することができる。

Werkverz./Nummer 作品主題目録／番号

ここでは作品主題目録の番号ないしは収録箇所が入力できる。引用法は作品主題目録に依拠しつつ、RISM 編集局によって定められる。

当該資料がある作品の単独楽章のみを含む場合、楽章番号はスラッシュの後に書かれる。その作品が作品主題目録に含まれていないことを明らかにするためには、“deest” と入力する。

Werkverz./ISN 作品主題目録／ISN

入力は既登録データ Katalog にリンクされ、自動的にこの項目に適切な aDIS データナンバーが現れる。

すでに Katalog に入力されたデータと直接リンクさせるために、この項目に入力することもできる。

Kirchl. Jahr 教会暦

ここではその作品の典礼上の用途についての指示が入力される。

この項目は既登録データ Thesaurus とリンクしている。

F 2 キーで、既登録データを検索することができる。

Kirchl. Jahr/ISN 教会暦／ISN

入力は既登録データ Thesaurus にリンクされ、自動的にこの項目に適切な aDIS データナンバーが現れる。

既登録データ Thesaurus と直接リンクさせるために、この項目に入力することもできる。

Besetzungshinweis 編成の表示

編成の表示は作品の全編成の簡潔な要約である。全編成の詳細な記述は“Besetzung, Bemerkungen”の画面で行われる。

RISM A/II の略語表が適用される。表にない編成名は英語で完全な形で書かれる。

個々の編成は最大4つの編成までに限られ、それらは以下の順序でコンマで区切って入力される。

声楽パート

独奏楽器

弦楽器

通奏低音

木管楽器

金管楽器

鍵盤楽器 等

同じ声部ないしは、楽器のパート譜が複数存在する場合、編成名の後ろに丸括弧で数を示す。

声部パート譜が異なる音域で複数ある場合は、V (数字) と要約する。

数が不明な場合は (X) と書くことができる。

編成の表示における独奏楽器は、オーケストラに対して継続して独奏機能を有する場合にのみ記される (特に独奏協奏曲)。個々の独奏パッセージを有するだけのもの (例: カンタータにおけるオーボエ独奏) は編成の表示には記載されない。

編曲の場合、編成の表示は原曲の編成ではなく、当該資料に記された編成による。

(もし、オリジナルの編成が知られている場合は、“Besetzung, Bemerkungen” の項目に入力される)

Collection (コレクション) の場合は、当該の表示が収録作品すべてにかかわる時のみ入力される。

次の楽種の場合、標準編成であれば編成の表示を除外してもよい。

—オペラとオラトリオ全曲 (標準: 独唱, 合唱, オーケストラ)

—交響曲 (標準: 弦楽器, 木管楽器, 金管楽器=オーケストラ)

—合奏協奏曲 (標準: 独奏楽器 (X), 弦楽器あるいはオーケストラ, 通奏低音)

編成が不明、あるいは疑わしい場合もその表示を除外する。

例：

A, Coro, orch

V (3), strings, bc

cl, orch (=クラリネット協奏曲)

vl (2), vla, vlc (=弦楽四重奏曲)

Tonart 調性

ここでは作品全体の調性が RISM A/II の略語表に従って入力される。

編曲の場合、原曲の調性が不明なら当該資料の調性が適用される。しかし、この場合 Titel 画面の Bemerkung の項目に適切なコメントを書くことが必要とされる。

オペラ、オラトリオ、カンタータの場合、原則として調性の指示は除外される。

レチタティーヴォ（後続のアリアのないもの）、および調性が明らかでない作品の場合、調性の指示を除外する。

教会旋法は現代的な調名に置き換えられることはない。

Opus 作品番号

ここでは作品番号が入力される。複数の番号はセミコロンで区別すること。

個々の楽章はスラッシュ (/) の後に表示する。資料にはないが確認可能な作品番号は角括弧 ([...], ブラケット) で入力される。

例：54/1; 54/2

31, 1/2

Textsprache 歌詞の言語

Textsprache という項目には、声楽曲の歌詞の言語が入力できる。声楽曲の場合には選択枠から言語を選び入力すること。

確認済の歌詞（例：翻訳原本、器楽編曲の原曲）の場合も入力が必要である。Textincipit（歌詞冒頭）のヘルプを参照せよ。

Entst. Land 成立国

資料の成立国は略語表に従って入力される。成立国が不明の場合、この項目は省かれる。

Materialart (資料のタイプ) には、主要資料の成立国と異なる場合のみに、成立国が記録される。

Entstehungszeit von 成立年月日, ~から

ここでは成立年月日 (資料完成の年月日あるいは資料作成を始めた年月日) が入力される。年のみ (1746) や年月のみ (12.1764) の入力も可能である。

所定の入力方法: 「日.月.年」

成立期間が不明確な場合も、できる範囲まで明記すべきである。例: 18.sc=(18世紀), 1740c=(1740年頃)。

日のみ、月のみ、月日のみが知られている場合、年月日項目の後ろの項目にそれらを入力すること。

例: 06.06.1700

11.1802

1769

Entstehungszeit bis 成立年月日, ~まで

ここでは当該資料の成立期間の終わりが入力される。年のみ、あるいは年月のみの入力も可能である。

所定の入力方法: 「日.月.年」

不明確な成立期間もできる範囲まで明記すべきである。例: 18.sc=(18世紀)。

日のみ、月のみ、月日のみが知られる場合、年月日項目の後ろの Text 項目にそれらを入力すること。

例: 10.06.1767

10.1669

1700

Entstehungszeit Text 成立年月日, テキスト

ここには Entstehungszeit von と Entstehungszeit bis の入力方法に一致しない記述を入力するこ

とができる。

この項目には数字のない年月日記述（例えば復活祭）、年月日備考、不確かな記述、別の成立年月日を入力できる。

不明確な成立期間もできる範囲まで Entstehungszeit von と Entstehungszeit bis の項目に明記すべきである。例：18.sc=(18世紀), 1810c=(1810年頃)

年月日を入れる際、RISM-A/IIの略語リストの略語を使う必要がある。

例：Ostern 1805（1805年の復活祭）

?1745?

Typ 種類

必須項目

この項目では資料の種類が記述される。

リストから参照できる種類：

mh 自筆譜

m? 不確かな自筆譜

mp 部分的自筆譜、自筆の書き込み

手稿譜の全体あるいはそのほとんどが作曲家によって書かれている場合のみを自筆譜とする。自筆の訂正あるいはわずかな追加は mp の記号で示される。この場合には externe Bemerkung（外部のコメント）というカテゴリーに注を記入する必要がある。

ある作品の編曲者が同時に書き手である場合も、その筆写楽譜は自筆譜とはならない。手稿譜集の場合、自筆譜に関する記述は個々に入力される。

自筆譜と不確かな自筆譜の場合、作曲家名は書き手名の項目に入力しない。例外：書き手は確認済であるが、その人物が作曲家であるかどうか不確かな場合。書き手名は sonstige Personen（その他の人物）の項目に入力し、また m (mutmaßlich 推定) または m? (fraglich 不確か) という略語を付

けて、作曲家名として Person von の項目に入力する。

その他の種類：

ma 筆写楽譜

md 印刷譜

mk 台本（印刷）

ml 台本（手稿）

mu 音楽理論書（印刷）

mt 音楽理論書（手稿）

mz 音楽雑誌

Ort/normierte Form 地名／規定の地名

資料自体に成立の場所が記載されている場合、当該資料の成立地名はこの項目に入力する。

書き手、ないし書き手のグループにもとづいて、ひとつの地域に確定することが可能な場合（例：ヴェネツィア、ないしドレスデンの筆写者による場合）、ひとつの地名を挙げるができる。

この項目は、既登録データ Thesaurus とリンクしている。

F2 キーで、既登録データを検索することができる。

Ort/Vorlageform 地名／原本の地名

この項目には、当該資料に記載された地名をそのまま入力することができる。

Ort/Ind. 地名／表示

地名が、資料に部分的にしか記載されていない場合、ermittelt（確認済）として表示する。

同定が疑わしい場合は、地名に mutmaßlich（推定）が付加される。

資料、ないし文献の同定が疑わしい場合は、angeblich（表示上）が記される。

同定が間違っている場合は、fälschlich（錯誤）をつける。

–Bemerkungen コメント

この項目には、成立場所に関する追加のコメントを入力することができる。

例：

紙表紙にある追加の注記：„[18] 67. Paris.“

1.3. Maske Physische Beschreibung 外的記述のテンプレート

Sortiernummer ソート番号

この項目は、上位グループ Collection (コレクション) のなかの Werk in Collection (コレクション中の作品) へ正しくリンクするためのもの、ないし、上位グループ Werk (作品) または Collection (コレクション) のなかの Materialart (資料のタイプ) へ、正しくリンクするためのものである。

初期設定で、項目には 0010 がすでに入力されている。Collection または Werk にもとづく、新しい下位グループ Werk in Collection または Materialart が作成される場合は、自動的に正しいソート番号が (10 毎に) 入力される。

これに反して、もし Werk in Collection グループないし Materialart グループが、既存のグループをコピーして作成されるか、手動で新しい分類が作成されるかで、上位グループへリンクされる場合、ソート番号は手動で訂正されなければならない。

まちがって見落とした下位グループは、中間の番号を訂正することで、適切な箇所に設定することができる。

Ausgabeform 出版形態

必須項目

この項目には、資料の出版形態を入力する。リストボックスから選ぶこと。

選択肢

1. part/s パート譜

「パート譜」とは、ひとつの作品の、ひとつの楽器ないしひとつの声楽パートのための楽譜で、譜表

の数には左右されない。したがって、オルガン、ないし4手のためのピアノ譜も含まれる。

2. score/s 総譜

総譜は、ひとつの作品の全声部を含み、2声部以上を扱っていることを条件とする。ピアノ伴奏の声楽曲、およびこれに類するものも、総譜に相当する。

3. short score/s ショート・スコア

ショート・スコアは、総譜を縮小した形式のあらゆる種類のもものと理解する。たとえば、ピアノ編曲譜。

4. choir book/s コアブーフ (合唱譜本)

5. text document 文書

6. others その他

部数は、出版形態の直前に示される。Xの印は、出版形態の数が不明なことを意味する。

ほかの資料のタイプについては、Bearbeiten (編集) — Neue Materialart (新しい資料のタイプ) のところにあるメニューで入力できる。

例：

12 parts

score

Maske “Physische Beschr.” → テンプレート「外的記述」→

出版形態／付記

この項目では、出版形態に関する付記を詳細に入力することができる。ここでも、リストボックスから選ぶこと。

さらに詳しいコメントは、Bemerkung zur physischen Beschreibung (外的記述へのコメント) の項目に入力できる。

3 vol.

defect

2 x

incpl

Umfang 分量

資料のページ数, 葉の数, 折丁の数は, この項目に入力する。

数の最後に, f.=folio (葉), p.=page (ページ), lvs.=leaves (折丁), fds.=folds (束) をつける。
1 lvs. は 2f. に相当し, 1fds. は少なくとも 1 lvs. を意味する。手稿コレクションのなかの個々のページ数や葉の数の記載もここでできる。

数の入力, は基本的にひとつの単位のみで行う。他の単位を併記する場合 (たとえば, 葉からページへの換算) は, Bemerkungen zur phys. Beschreibung (外的記述に関するコメント) の項目に入力できる。

Stimmen/Umfänge/Anzahl 声部/分量/数

当該資料のより詳しい記述は, RISM A/II 略語表に従って, この項目に入力する。

リストボックスから適切な略語を選ぶこと。リストに適切な声部名が見つからない場合は, 直接入力する必要がある。その際, 器楽声部は小文字の, 声楽声部は大文字の頭文字とする。

声部名を厳密に確認できない場合は, そのことを no further indication (表記不能) と示すこと。

声部名を列挙するには, つぎの順序で行うこと:

声楽声部 (独唱)

声楽声部 (合唱)

独奏楽器

弦楽器

通奏低音

木管楽器

金管楽器

その他の楽器

声部は, それぞれ最高声部から最低声部の順に列挙し, 必ずカンマで区切ること。

個々の声部に対する追加の情報 (Kurzkommentare) は (たとえば, 声部の数や不完全であることなど), 声部名の記号表記の直後に, 丸括弧に入れて付記することができる。

凡例

S 1, 2, A, T, B

Coro T

vl 1, 2, vla, vlc, b (=bc)

ob 1, 2, cl 1, 2 in B | b

tr 1 and 2 in B | b (incpl)

org (3x)

Stimmen/Umfänge/Umfang 声部/分量

数の最後に, f.=folio (葉), p.=page (ページ), lvs.=leaves (折丁), fds.=folds (束) をつける。1 lvs. は 2 f. に相当し, 1 fds. は少なくとも 1 lvs. を意味する。手稿コレクションのなかの個々のページ数や葉の数の記載もここで行う。

数の入力, は, 基本的にひとつの単位のみで行う。他の単位を併記する場合 (たとえば, 葉からページへの換算) は, Bemerkungen zur phys. Beschreibung (外的記述に関するコメント) の項目に入力できる。

Format サイズ

この項目では, 資料のサイズ (高さ×幅 cm) が記入される。

副次的なサイズは, 丸括弧で追加することができる。

2つ以上の異なるサイズがある場合は, Different sizes という記述がなされる。より詳しい説明は, Bemerkungen zur physischen Beschreibung (外的記述に関するコメント) の項目に記入することができる。

quer-8 (8つ折り判), quer-4 (4つ折り判), klein quer-8 (8つ折り小判) などのサイズは, できる限り精確に測定しなければならない。

例:

25,5 cm×30,5 cm

25,5 (21,5)×32 (28,5) cm

Different sizes

Wasserzeichen 透かし

この項目では、資料内に存在する全ての透かしについて記録することができる。記入は、Register (索引) を用いて統一すること。

大文字、名前の書き方、暦年数は、原典に忠実に記述される。

改行は、| で示される。

2つ目の透かしは、英語の countermark が使用される。

透かしの記述は、英語で統一して書かれる。引用された透かしと区別するために、記述は角括弧内になされる。

透かしに関する文献、もしくはその他の文献にある図版への参照指示は、Literatur (Maske Besetzung, Beschreibung) の項目内で、表示 wz を選んで記入することができる。

例：

C & G HONIG

GFA | VB [GFA über VB]

IV [countermark:] VI

[coat of arms]

[3 crescents]/MA

[EinederH 1960 260]

Einband 装丁・製本

オリジナルの装丁や、古い、かつ/もしくは特に壮麗な装丁は、この項目に簡潔に記述される。もし、資料が分冊で製本がなされていない場合も、同様にここで言及される。

Bemerkungen コメント

この項目は、資料の詳細な記述、特に損傷や不完全なものについての記述を扱う。

もし資料が明らかに不完全である場合、ここではその状態が詳しく記述される。同様に、原本のフォリオ数に関する記述も、特にそれが Umfang (分量) の記述と一致しない場合は、ここで行うこと

が可能である。

部分的な自筆資料の場合は、ここで自筆の書き込みの種類、サイズ、及び位置についての注意事項を記述することができる。

例：

other parts missing

fl 1 with autograph dynamic signs

original paginated from 1-12

1.4. Maske Besetzung 編成・テンプレート

Besetzung insgesamt/Besetzung 編成全般／編成

この項目には、Besetzunghinweis（編成の表示）に要約されているその作品の全ての楽器編成が記入される。そのため、Besetzunghinweis は、常に Besetzung insgesamt 内の記述と一致しなくてはならない。

もし、全編成が記述されていない場合は、タイトル、もしくは資料から確定されねばならない。全編成が不明な場合は、ここでは no indication という一般的な記述で示される。疑わしい場合は、コメントの項目で詳しく説明される。

リストボックスから適当な省略記号を選ぶこと。リストにないパート表示は、省略しないで記述されねばならない。その際、楽器パートの頭文字は小さく、声楽パートの頭文字は大きくすること。

編成の表示は以下の順番となる。

声楽声部（独唱）

声楽声部（合唱）

独奏楽器

弦楽器

通奏低音

木管楽器

金管楽器

その他の楽器

各パートは、声域の高いものから低いものの順で記述される。その場合、1行につき1記号ずつ記述されることが望ましい。

別の編成は、括弧付きで元の編成に追加記述される。

例：

Besetzung insg — Anzahl

S	2
A	1
T	1
B	1
Coro 1 T	1
Coro 1 A	1
Coro 2 S	1
vl	2
vla	1
vlc	1
b	1
ob (fl)	2
cl in B b	2
tr in B b	2
org	1

Besetzung insgesamt/Anzahl 編成全般/数

ここでは、それぞれのパートの数を入力する。パートの数にはパート記号を補足し、パート記号を入力する場合は常に数も入力すること。

例：

編成	数
iSol: pf	1
vl	2
vla	1
fl	2

Rollen 役

この項目では、作品のすべての役名を入力できる。役名は、資料自体に書かれている場合でも二次資料に書かれている場合でもかまわない。冠詞をうしろに書くことはしない。

役名のあとに丸括弧で声域を入力できる。

役名は、可能であれば高音の声域から低音の声域の順で入力する。

資料に対する補足は角括弧によって示される。疑わしい資料は疑問符で指示する。コンマは使用できない。

例：

Donna Flavia (S)

Theodor (T)

Zerbinetta (Mezzo-S)

Ein Polizeikommissar (Bariton)

Der Schornsteinfeger (Bariton)

Doktor Zwingli (B)

?Achiar?

Drei Knaben

Aufführungen/Datum 上演/日

ここでは資料自体に書かれた上演日を入力する。

日付、場所（資料のまま、地元の読み方で）そして、所蔵機関を入力する。
年代順に入力する。

年のみ、あるいは年と月でも入力できる。

所定の入力方法：「日.月.年」

不明確な成立期間もできる範囲まで明記すべきである。例：18.sc=(18世紀)。

日のみ、月のみ、月日のみが知られる場合、年月日項目の後ろの Text 項目にそれらを入力すること。

例：

10.06.1767

10.1669

1700

Aufführungen/Text 上演／テキスト

この項目には Datum 項目の日、月、年の入力書式に一致しないすべての指示が入力できる。

この項目には数字のない年月日記述（例えば復活祭）、年月日備考、不確かな記述、別の成立年月日を入力できる。

年月日を入れる際、RISM-A/II の略語リストの略語を使う必要がある。

例：

Ostern 1805

1730c (ca. 1730)

?1745?

Aufführungen/Ort normiert 上演／規定の地名

この項目には作品が上演された地名が資料自体に示されている場合に限り入力される。

この項目は、既登録データ Thesaurus とリンクしている。

F2 キーで、既登録の地名を検索することができる。

Aufführungen 上演／Ort Vorlage 原本の地名

この項目には、当該資料に記載された地名をそのまま入力することができる。

Aufführungen/Inst. 上演／施設

ここではある作品の上演施設（例えば歌劇場、コンサートホールなど）を入力することができる。

Arbeitshilfe 6 (Opernhäuser) の規定の名称も参考にせよ。

Literatur/Titel 文献／タイトル

ここでは作品目録の記述以外の資料、あるいは作品に関する参考文献が入力される。作品目録の記述は Titel, Entstehung という画面の Werkverzeichnis 項目になされる。

参考文献としては登録に際して用いた文献、あるいは具体的にその資料に関係する文献のみが記述される。

資料と関係する出版楽譜もここに記入することができる。

さらに、ここでは透かしの図版への参照を入力することができる。その場合、ind というリストボックスから該当のタイプを選択すること。

この項目は既登録データ Katalog とリンクしている。

F 2 キーで、既登録データの検索、あるいは新たな登録を行うことができる。

Literatur/Kürzel 文献／略語

この項目には、参考文献の略語が現れる。

略語の直接入力によって参考文献を参照することもできる。

この項目は既登録データ Katalog とリンクしている。

F 2 キーで、既登録データの検索、あるいは新たな登録を行うことができる。

Literatur/Nummer 文献／番号

ここでは参考文献の巻 (vol.), 号 (fasc.), 別巻 (suppl.), 部 (pt.), 頁 (p.), 段 (clm.) が入力される。

例：

vol. 2, pt. 2, p. 430

vol. 5, p. 93; vol. 6, p. 12

Suppl.1: 1779-1780, clm. 695 (Breitkopf-Katalog)

Literatur/Ind. 文献／表示

表示によってある参考文献のタイプが示される。

可能な表示は、ed (出版楽譜)、lh (その他の参考文献)、wz (透かしに関する参考文献) である。

Literatur/ISN 文献／ISN

既登録データ Katalog の記録にリンクさせると、この項目には自動的に相当する aDIS-データナンバーが現れる。

すでに既登録データ Katalog に登録された記録に直接リンクさせるため、この項目に入力することもできる。

Bemerkung intern/Bemerkung 内部コメント／コメント

本項目は編集局から、あるいは編集局への通知のためのものである。その際、次のリストボックスから相当する表示を選ぶこと。

Bemerkung intern/Art. 内部コメント／タイプ

この表示はコメントのタイプを示す。参照→Hilfetext zu, “Bemerkung intern”

Bemerkung intern/Berarbeiter 内部コメント／編集者

この項目にはあなたの編集者としての略名を入力することができる。

Bemerkung extern/Bemerkung 外部のコメント／コメント

他の項目に入力できなかった、ある資料に関する全情報がここに入力される。

例えば手稿譜から引用する場合、引用であることを表示し、出典を付記する。そうした場合、改行は | (前後にスペース) で示される。引用への補足は、常に角括弧を用いて示される。

一つの図書館の所蔵資料を入力する場合は、出来るだけ統一した表現を用いること。

外部のコメントは、RISM の公式言語であるドイツ語、英語、フランス語を用いること。言語の混用

は避けること。

A/IIの他の資料を引用する場合，RISM 番号だけでなく，国家記号，図書館記号，全ての分類記号を記入すること。国家記号と図書館記号の間には，ハイフンを用いること。

完全な文章の最後には，ピリオドを付記すること。

例：

Titel der b-Stimme: "Cantata | dominica pentec. | [...] per Soprano, Alto/Tenore e Basso | del Sig. | r | e Jommelli"

Ein weiterer Schreiber beteiligt

Vermerk auf der vlc-Stimme, f. 8: "Wir streiken für neue Bögen"

Es handelt sich um umtextierte Arien aus Jommellis Oper

Weitere Stimmen in D-KPk 282

Laut FlotzingerL 1965: Komponist Mozart

Vergleiche die Partitur in I-Rc Mus.ms.4: dort abweichende Besetzung.

Besetzung des zweiten Agnus Dei: S, A, T, T, B

Bemerkung extern/Spr. 外部のコメント／言語

外部のコメントで用いた言語を，ここで選択すること。

1.5. Maske Multimedia マルチメディア・テンプレート

1.6. Eingabeformular Musikincipit 音楽インチピットの入力

Titel タイトル

各楽章のタイトルや表題はここに入力される。

改行は | (前後にスペース) で示される。補足は常に角括弧を用いて示される。

Besetzung Satz 楽章の編成

楽章の編成に関する特別な情報 (例えば大規模な声楽作品内など) はここに入力される。

声部の名称は RISM A/II の略語表に規定されている。

通常は以下の順序である。

声楽声部 (独唱)

声楽声部 (合唱)

独奏楽器

弦楽器

通奏低音

木管楽器

金管楽器

その他の楽器

声部は、それぞれ最高声部から最低声部の順に列挙しカンマで区切って記す。

各声部群はセミコロンで区切られる。補足は角括弧を用いて示される。

例：

S (Enrico), T (Vanoldo); vl 1, 2, b; [winds]

S 2 solo; Coro; ob obl; strings, bc

Incipitnummer インチピット番号

必須項目。

インチピット番号はピリオドで区切られた3つの数字から成り立っている。

それらは、作品、楽章、インチピットを示す。

作品は常に数字の1で示される。

末尾が1と2のものは (例えば 1.1.1 や 1.1.2) は同時に奏される場合に使用される。

例：

1.1.1=第1の作品, 第1楽章, 第1のインチピット

1.1.2=第1の作品, 第1楽章, 第2のインチピット

1.2.1=第1の作品, 第2楽章, 第1のインチピット

Bezeichnung テンポ

ここには、インチピットのテンポやそれに類する表示が原綴りで入力される。

同一楽章に関する同じ表示は、最初のインチピットにのみ記入される。

Without tempo という表示は、ひとつの楽章が複数のテンポ表示を含んでおり、そのうちの1つないしいくつかの表示が不明である場合にのみ使用される。

複数の表示はセミコロンで区切って併記する。

Schlüssel 音部記号

音楽インチピットの音部記号はここに入力される。

音部記号はリストボックスから選ぶこと。

最初の桁に音部記号の種類、3番目には音部記号の書かれた譜線が入力される。

2番目の桁にハイフンがある場合は現代の記譜法であることを意味し、プラスの印は計量記譜法であることを意味する。

音楽インチピットが入力されず、例えば歌詞と編成のみが記されている場合は、音部記号を入力する必要はない。

Tonart 調性

ここには楽曲の調性が入力される。リストボックスから該当する調を選択すること。

Taktart 拍子

音楽インチピットの拍子は、ここに入力する。

設定されたリストボックスから拍子記号を選ぶこと。

本ソフトでは、以下のように定められている。

c = 4/4

c/ = 2/2

o = 3/1

o/ = 3/2

資料に「3」とだけある場合は、Zähltakt の項目に 3/4 などの拍子記号で補われる。

音楽インチピットに拍子の表示がない場合は、空欄とする。判明した拍子は、つぎの Zähltakt 項目に入力する。

Zähltakt 拍子の数

音楽インチピットの実際の拍子が、資料の拍子記号ないしメンスーラ記号と異なる場合は、この項目に、実際の拍子を入力する。本項目は、例えば、音楽インチピットに拍子がなかったり、訂正不可能な場合は、拍子の数は 0 を入力する。

Besetzung 編成

音楽インチピットの編成は、RISM A/II の略語表を使って入力する。

不明の声楽声部に関しては略語 V を、不明の器楽声部に関しては、略語 i をあてる。

移調楽器は、実音で記譜すること。

Rollenangabe 役名の入力

この項目には、音楽インチピットの役名を示すことができる。冠詞は、最後に回さないこと。コンマの使用は認めない。

資料への補足は、角括弧で示される。データに対する疑問は、疑問符で示される。

Textincipit 歌詞冒頭

歌詞冒頭はここに入力される。

ラテン語の歌詞は、つぎの項目 Lateinischer Text に入力される。

資料にはなく、あとから判明した歌詞は、ここに角括弧で入力される。

上記に相当するのは：

- 声楽パート譜が失われている場合は、その本来の歌詞冒頭
- 資料の歌詞が翻訳である場合は、作品の原語の歌詞冒頭
- 変奏曲の主題となった声楽作品の歌詞冒頭、または器楽編曲の原曲となった声楽作品の歌詞冒頭

部分的な角括弧の使用は認めない。

Register (索引) を参照して、入力書式を統一すること。強調の傍点 (例えば、感嘆) は、省略すること。アクセント記号は、辞書に書かれている通り、または、文法的に正しく、使用すること。句読点記号や歌詞の反復は、省略すること。冒頭に数字が来た場合、その数字は、文字表記で書き換えること。

大文字、または小文字の表記法はそれぞれの言語のルールに従う。しかし、神を表す語は常に大文字を使う (Herr, Dio, Dieu, Signore, Lord など)。

ロマンス語では、アポストロフィのあとは常にスペースを用いず、文字を直接つづけること。例外は、単語の最初の文字がアポストロフィによって置き換えられている場合である (例 Fra l'amante e l'gentior)。

歌詞冒頭を整理タイトル ET として使用している場合、タイトルの長さとスペルが正確に一致するよう注意を払わねばならない。

Lateinischer Text ラテン語の歌詞

この項目には、宗教曲ならびに世俗曲のラテン語の歌詞が入力される。

この項目は、既登録データ Thesaurus とリンクしている。

F2 キーで、既登録データを検索することができる。また、必要であれば、新しい入力も可能である。

Thesaurus (表示 t) のなかで、正確な典礼上の機能や、ヴァリエーション (異形)、その他の情報を得ることができる。

歌詞冒頭が整理タイトル ET として使用される場合、スペルが一致しているか注意を払わねばならない。ラテン語の歌詞冒頭は、シソーラスのラテン語テキストに従う。ただし、ラテン語歌詞は分離表示 (星印) までに留める。

資料にはないが、調査によって判明したラテン語の歌詞は、角括弧を付して、Text im Incipit の項目に入力する。

Lateinischer Text/ISN ラテン語の歌詞/ISN

接続されたデータの 8 桁の aDIS データナンバー。

マニュアル入力によって、この項目に、直接リンクさせることもできる。

Incipit (Code) 音楽インチピット (コード化)

音楽インチピットは、ここにコード化した形で入力すること。音楽インチピットは、少なくとも2小節、または6音符分は入れること。

コード化：

このコンテキストにおいては、最初に音楽インチピットの調号を入力すること。調号は、直前に制御文字\$を入れて表示する。全体の調号がない場合は、制御文字も不要である。

そのつぎに、シャープ調の場合はxを、フラット調の場合はbを入れる。その後、全体に半音上げられる、ないし半音下げられる音高が示される。

例：

\$xFC (F音とC音にシャープがつく／ニ長調ないしロ短調)

\$bBEA (B音、E音、A音にフラットがつく／変ホ長調ないしハ短調)

\$bBE [A] (上記と同様だが、この場合、手稿譜では最初のふたつの音高のみが全体的にフラット記号がついている)

音楽インチピットの実際の開始は、常に制御文字_で示される (Alt+3)。

1. Oktavregister オクターヴ：

' = 1点オクターヴ

" = 2点オクターヴ

''' = 3点オクターヴ

, = 小字オクターヴ

„ = 大字オクターヴ

,,, = コントラ・オクターヴ

2. Die rhythmischen Werte 音価：

0 = ロンガ

9 = プレヴィス

1 = 全音符／セミプレヴィス

- 2 = 2分音符 / ミニマ
- 4 = 4分音符 / セミニマ
- 8 = 8分音符 / フーサ
- 6 = 16分音符 / セミフーサ
- 3 = 32分音符
- 5 = 64分音符
- 7 = 128分音符
- 4. = 付点4分音符
- 8.. = 複付点8分音符
- 7. = ネウマ

3. Akzidentien 変位記号：

- x = シャープ
- xx = ダブルシャープ
- b = フラット
- bb = ダブルフラット
- n = ナチュラル

4. Tonbuchstaben 音名：

C, D, E, F, G, A, B [!]

5. Vorschläge 前打音：

- g = 短前打音 (音価なし)
- q = 前打音 (音価有り)
- qq...r = いくつかが組になっている前打音 (音価有り)

6. Pause 休符：

- 8- = 8分休符
- 2- = 2分休符, etc.
- =もしくは=1 = 1小節休止
- =35 = 35小節休止 (縦線を忘れないこと！)

7. Taktstrich 縦線：

/ = 縦線

// = 複縦線

//: = 反復記号

:// = 反復記号

://: = 反復記号

8. Weitere Zeichen その他の記号：

t = トリル (直接音名の後にくる)

+ = タイ (直接音名の後にくる；スラーと混同しないこと)

() = フェルマータ (音名1つあるいは休符1つだけが、括弧に入れられる；変化記号、オクターヴ etc. は、括弧の外に置かれなければならない。特別なリズムの項目も参照。)

9. Balkung 連桁：

{ = 連桁の始まり

& = 慣習的な連桁 (_ の前に置かれる，楽譜に基づいた点検が必要である)

10. Sonderrhythmen 特別なリズム：

(= 特別なリズムの始まり

) = 特別なリズムの終わり

(の前に特別なリズムの総価が置かれなければならない；

(の後に最初の音符の音価が置かれなければならない，仮にその音価が特別なリズムの前の音符の音価と一致していてもそう書く。

) の前には特別な音符の数も示されなければならない。その数は；によって最後の音符から分けられる。

例：

8 (3ABCDE; 5) = 5 連音符，32 分音符 5 つ，総価 8 分音符。

8 ({3ABCDE}; 5) = 5 連音符，32 分音符 5 つ，総価 8 分音符，連桁つき

3 連符は特別なリズムの特殊ケースとして理解される。それは本来なら次のように記号化される：

8 (6 ABC; 3) もしくは 8 ({6 ABC}; 3)。その代りに次のような省略が許される：

(6 ABC)

({6 ABC})

注意：カッコの中の音価を忘れないこと！！

11. Verkürzte Schreibweisen 省略された書き方：

11.1. Figurwiederholung 音型の繰り返し：

! = 音型の開始, もしくは音型の終わり

f = 繰り返しの指示

その音型は、2つ目の!の後ろにfの数だけ、繰り返される（当該小節内でのみ可能）。

例：! {8 ABAG} !ff 2回繰り返し

11.2. Taktwiederholung 小節の繰り返し

i = 小節の繰り返しの指示

直前にある小節の繰り返し。iは常に2つの縦線の間に入れなければならない。

例：'4ABAG/i/i/' その小節の2回繰り返し

11.3. Rhythmisches Muster リズムパターン

あるリズムの連続が何度か繰り返される場合、リズムパターンとして当該の音名の前に置かれる。

例：'8.A6B8C8.D6E8F' の代わりに、'8.68ABCDEF' が来る。

他の音価が続くとすぐに、そのリズムパターンは終わる。

12. Schlüssel-, Vorzeichen-, Taktwechsel 音部記号, 調号, 拍子の変化：

これらの要素（%, \$, @）は、個別にでも一緒にでも、文脈上必要ならば再び指示できる。制御文字のあとに、変更された一般的な指示が続く（拍子, 変化記号, もしくは音部記号）, その後にスペースを置くこと。

注意：制御文字を忘れないように！！！！

例：

%C-1 '2A

%C-1 \$ xFC '8B

@3/2 '1C

\$ nBE \$ xFC

13. Abbraviaturen 省略法：

2分音符のD音に付されたトレモロや省略記号のような、楽譜に見られる略語表示は、実音表記されねばならない。

例：2分音符のD音に付されたトレモロ = {8DDDD}

14. Akkorde 和音：

同じ音価の単純な和音は、最も高い音符から最も低い音符の順で表示される。

例：4" C^ G^E^C

Bemerkungen コメント

ここでは、音楽インチピットへのコメントを入力できる。

? = 音楽インチピットの誤りが修正できない場合。

+ = 音楽インチピットの誤りを修正した場合。

t = 現代記譜法に転写された音楽インチピット。

これらの表示は英語で補足説明することができる。

erfasst am 登録年月日

登録年月日の行はタイトル登録のために用いられており、タイトルの進捗状況を除き、システム上作成される。年月日の変更は不可能である。

geändert am 変更年月日

システムによって自動的にデータの変更履歴が作成される。

Bearb. 編集者

タイトルを保存した後、この項目にはあなたがユーザー登録した略名が現れる。編集者の略名は検索できない。

Ersterf. 初登録者

タイトルを保存した後、Erst [erfasser] の項目には、タイトル初登録者のユーザー略名が自動的に現れる。この項目は検索も変更もできない。

Status 進捗状況

Status の項目では編集者のタイトル作成の進捗状況が入力できる。一般的に用いられている記号は、

[i] が暫定登録, [k] が編集完了, [y] が編集中を示している。

1.7. Eingabeformular Weiteres Material テンプレート「追加資料」

このテンプレート「追加資料」は、通常のタイトル作成におけるテンプレート Physischen Beschreibung 外的記述 と同一だが、重要な違いがある。追加資料のタイトル入力のテンプレートは初期設定では省略形式になっている。そのため、より詳しい情報、たとえば書き手の名前、追加の分類記号を入力する場合は、メニューから Einstellungen 設定 — Kurzaufnahme aus 省略登録, 解除を選んで、省略形式を解除しなくてはならない。その後、タイトル作成のためのすべてのテンプレートが利用可能になる。

1.8. Pasticcios etc. パスティチヨ等

パスティチヨないしコンピレーション（編集された作品）はコレクションと同様に記録される。言い換えれば、いずれの場合も新たな下位グループとして入力される。記録形式としては、コレクションの場合と同様に、コンピレーションないしパスティチヨと書かれる。

1.9. Hilfetexte Collection コレクション入力の手引

コレクションの入力において重要な原則は、できる限り過剰な記述を避けることである。それゆえ次のような規則が有効である。

1. コレクション全体に該当する全ての表示を、コレクションのトップに入力する。
2. コレクションの個々の部分にのみ該当する表示は、コレクションのトップではなく下位グループに入力する。

例 外

Person von 人名

必ずしも入力する必要はない。

当該の表示がそこに含まれるすべての作品に該当する場合は入力する。（後世による作曲者名の変更に注意すること）。

Sonstige Person その他の人名

当該の表示がそこに含まれるすべての作品に該当する場合は入力する。

2. Technische Dokumentation テクニカル・ドキュメンテーション

2.1. Suchmöglichkeiten in Kallisto カリストでできる検索法

カリストでは数多くの方法で検索を行うことができるが、最も多く使われるのは、組み合わせ検索とトランケーション検索であろう。

例を挙げよう。あなたはミヒャエル・ハイドンのすべてのミサ曲を探している。そのためあなたは、Komponist に名前、Titel にタイトルを入力する。検索結果の一覧には検索した組み合わせに該当するすべてのタイトルが列記される。Haydn のみで検索した場合、ヨゼフ・ハイドンのすべてのミサ曲もこの一覧に含まれることになる。

検索項目の中の Feldanfangssuche (先方一致検索) を使うと、検索はより正確なものとなる。それによってそのキーワードが実際に項目冒頭に含まれるタイトルのみが表示される。

正確な検索に対し、トランケーションによって検索をより詳細に行うことができる。例えば、明確なキーワードがない場合にも検索を行うことができる。キーワードにアスタリスクを付することによって、トランケーション検索を行うことができる。

例を挙げよう。Titel の項目に Zauberflöte を入力すると、Zauberflöte という言葉を含むすべてのタイトルが表示される。Feldanfangssuche を使った場合、実際に Zauberflöte と題されたもののみが表示される。Feldanfangssuche を使わず、Zauber* だけを入力した場合、Zauber という言葉を含むすべてのタイトルが表示される。

こうして数多くの組み合わせ検索を行うことができる。ただし、組み合わせたキーワードは常に UND によって連結される。

UND あるいは ODER を用いた検索は検索 Logik で設定される。

例を挙げよう。あなたはオーストリアの図書館に保管されていない、すべてのミサ曲を探している。そのためあなたは、Sigel の項目に A-*, Titel の項目に Masses を入力する。そしてツールバーで Logik を選ぶと、新たなウィンドウが開き、そこには検索の明細が示される。その中に、1 u 3 という検索を行う、規定の UND-Operator がある。u を n に変えることによって UND 検索を UND-

NICHT 検索に変えることができる。そうすれば、オーストリアで保管されていない、すべてのミサ曲を見つけることができる。ODER-Operator (1 o 3) を用いた場合、オーストリアで保管されている資料と、ミサ曲すべてが表示される。

2.2. Exportfunktionen エクスポート機能

カリストでは、直接印刷とサーバー印刷という二つの印刷方法がある。サーバー印刷の場合、複数のレコード（記録）を、特定のフォーマットにエクスポートし、印刷することもできる。

2.2.1. Direktdruck 直接印刷

まずは、ツールバーの印刷シンボルをクリックすることによって、あるレコードの総合画面を印刷することができる。続いてあなたのローカルの印刷画面が開き、そこで印刷を開始することができる。

2.2.2. Serverdruck サーバー印刷

複数の、前もって選抜されたレコードは、サーバー印刷で印刷される。この方法にはいくつかの追加の措置が必要なので、直接印刷より複雑である。

まずは検索結果の一覧から印刷したいレコードのすべてを選ぶこと。

続いてツールバーで Datei の下で、Serverdruck をクリックすること。

さまざまな項目が表示された新たなウィンドウが開く。ここではエクスポートのフォーマットを設定することができる。直接印刷と同様な印刷のため、Gesamtinfo を選ぶこと。すると、左下では 000 X Gesamt informationen gedruckt というメッセージが表示される。

これからの過程はバックグラウンドで行われる。データは希望のフォーマットでサーバーによって作成される。この過程には数分かかることがある。

さて、印刷したいデータはどうして手に入れるのだろうか。それは Nachrichten funktion（通知機能）によってなされる。Nachrichten funktion はツールバーの Fenster の下にある。Nachrichten funktion を選ぶと、新たなウィンドウが開き、Gesamtinfo Handschriften と題されたサーバーによる通知が表示される。

それをダブルクリックすると、画面の下方にはサーバーからの通知が表示される。Beigefügte

Dateien (添付データ) のところに、印刷したいファイルへと直接連なるリンクが見つかる。

そのリンクをクリックすると、新たなウィンドウが開き、二つの選択肢を得る。第一に、ファイルをすぐに印刷することができる。その場合、あなたの標準プリンターが利用される。第二に、ファイルを、あなたのカリストの Work フォルダで保存し、編集し、そしてエディターやウェブブラウザを用いてそれを開き、印刷することもできる。

2.3. Rechteverwaltung 権限管理

Kallisto の大きな利点は、Project A/II に含まれる全てのレコードをはじめて利用できるようになったことである。そのため参加者が権限なしに他のグループのレコードを変更できないようにする必要があり。以下に利用者権限に関する規則を記載する：

各参加者は利用者名とパスワードでログインする。

各参加者は特定のプロジェクトか、グループに属すること。その所属は当該団体に対する各参加者の役割によって決定される。また、レコード作成の図書館記号はプロジェクト団体のものでなければならない。その関連付けは中央編集局が行う。

全てのプロジェクトのレコードは閲覧可能だが、変更はそのプロジェクトの関係者のみが行える。

既存の名称や団体は中央編集局によってのみ変更される。

名称や団体は新規に登録することができる。ただしその編集は、編集中で中央編集局がそのレコードを点検するまで可能である。

2.4. Tastaturkürzel ショートカットキー

Suchmaske 検索画面

検索開始：Alt-u

再検索：Alt-w (チェック・ボックスは未選択の状態に戻る)

新規検索：Alt-s

結果リスト表示：Alt-t

全情報表示：Alt-g

検索形式：Alt-l

修正方法の変更：Alt-?

新規作成の変更：Alt-n

中断（データベースの選択に戻る）：Alt-r

Trefferliste 結果リスト

チェック・ボックスに移動：Tab

チェック・ボックスを選択：スペース

新規検索：Alt-s

検索形式：Alt-l

新規作成の変更：Alt-n

結果リストの印刷：Alt-u

全情報：Alt-g（チェック・ボックスで何も選択されないと全ての結果が表示される）

最初または最後のページを開く：F 7/F 8

直前または次のページを開く：F 11/F 12

中断（検索画面に戻る）：Alt-r

Gesamtinfo 全情報

チェック・ボックスに移動：Tab

チェック・ボックス選択：スペース

図書館／人名／インチピット等の選択：Alt-g

新規検索：Alt-s

検索方法：Alt-l

結果リストに戻る：Alt-r

新規作成の変更：Alt-n

全情報の印刷：Alt-u

表示された結果の変更：Alt-?

最初または最後のページを開く：F 7/F 8

直前または次のページを開く：F 11/F 12

Änderungs-Modus 更新方法

2つのテンプレートの入れ替え：Ctrl-↑または Ctrl-↓

表を開く：Ctrl-t

エディターを開く：Ctrl-e

Tabelle 表

内容の上書きなしに表のフィールドを開く：テンキー 1/End

表の上書き：Ctrl-s

表を開く：Ctrl-o

検索：Ctrl-f

表の印刷：Ctrl-p

置換：Ctrl-h

行の挿入：Ctrl-i

行の削除：Ctrl-d または Ctrl-Del

表の終了：Ctrl-F 4 (注意：Alt-F 4 ではプログラム終了)

備考：Kallisto にログインする前に Menü-Optionen-Tastatur を選び、(Enter) を通常の状態
使えるようにしてください。

2.5. Zeichensatz フォント設定：

Kallisto では Adisibnt フォントを使用している。あなたはスタートメニューから「ファイル
を指定して実行」をクリックし、“charmap” と入力すると Windows のフォント表を見ることが
できる。Adisibnt フォントの全ての特殊記号はそのためのショートカットキーで表示される。

2.6. FAQ よくある質問

2.6.1.1. 音楽インチピットは、コピーできるか？

音楽インチピットは、下位グループとしてレコードにリンクされている。ひとつの音楽
インチピットをコピーすると、このリンクも一緒にコピーされてしまう。したがって、
音楽インチピットは残念ながら、他のレコードのために転用することはできない
ということである。

2.6.1.2. レコードを抹消するにはどうしたらいいか？

レコードの抹消は、権限上、中央編集局に限られる。もっとも早いのは、中央
編集局に問題のデータ番号を連絡することである。

2.6.1.3. レコードを非公開にするには、どうしたらいいか？

これは、physische Beschreibung (外的記述) の画面にある OPAC の項目で行える。この項目が空の場合は、レコードは非公開となる。

2.6.1.4. マルチメディア・ファイル、特に画像ファイルをレコードに添付するには、どうしたらいいか？

マルチメディア画面で、画像やその他をあなたのレコードに添付することができる。この機能の正しい使い方は、別のオンライン・チュートリアルで説明されている。

2.6.1.5. コレクション全体をコピーできるか？

できない。常に一つずつのレコードのみコピーできる。

2.6.1.6. 特定の記号は Kallisto では使用できない。どうしたらよいか？

将来的には、特定の特殊記号をユニコード記号として diplomatischer Titel (原典そのままのタイトル) や, Bemerkungen extern (外部コメント) などの項目で入力できるようになる。しかし、これは、今のところ Kallisto に設定されていない。当面は、これらの記号を書き換えるほかない。

2.6.1.7. Fehler beim Schreiben in die Objektdatei ! (8015) のメッセージが現れ続けている。これは問題なのか？ また、どうすれば、消すことができるのか？

このメッセージは、あなたの Kallisto のフォルダーの中の v2obj.dat ファイルに不備があることを知らせている。これは、時々、接続の切断やアップデート後に生じることがあるが、気にする必要はない。単にこのファイルを消すこともできるし、ログインする前に Bearbeiten — Optionen — lokate Objekt — Datei neu anlegen に入り、その後、ファイルを新しく作成することもできる。

2.6.1.8. レコードを変更したいのだが、Titel noch in Bearbeitung のメッセージが出続けてしまう。

希望のレコードは、ほかの操作によってブロックされているのである。つまり、別の Kallisto 使用者がちょうど作業を行っているか、または、接続が途切れたことでレコードが正常に終了されていない

いかの、いずれかが原因である。このような場合は、中央編集局にご連絡いただきたい。

2.6.1.9. データは、どのくらい安全なのか？

Kallisto の全データは、現在、ベルリン国立図書館によって管理され、あなたのデータの保全に関しても、同国立図書館が責任をもっている。目下、毎日、全データの保全を確認している。

2.6.1.10. パスワードを忘れたのだが？

中央編集局にご連絡をいただければ、折り返し新しいパスワードを発行する。

2.6.1.11. その他の問題が生じた場合、どのように対応するのか？

Kallisto に関するすべての問題は、中央編集局で受け付け、サポートする。